



▲藤里地区での受検組合長会議の様子

受検組合長会議を開催

J Aあきた白神

平成28年産米の概算金・買取米価格について協議する受検組合長会が、9月14日に管内3地区で開催されました。

このうち藤里地区では、受検組合長やJ A役職員など約40人が参加。あいさつで佐藤組合長は「直接販売比率の高い当J Aでは、生産者へ11,600円の仮渡金を決定した。今後も独自販売を中心に卸業者・商社と交渉を重ね、より有利な販売をして、さらに追加精算ができるようあきた白神米の販売に努める」と話しました。その後、担当者から刈取適期の目安などが説明された他、消費者が求める安全・安心な「あきた白神米」を出荷しようなどの申し合わせをし、参加者らは高品質米の生産・出荷を誓い合いました。



▲挨拶をする佐藤組合長

青年部多収穫競争会を開催

青年部

青年部（池端竜部長）による多収穫競争会が9月12日に行われ、28年産米の出来について確認しました。

管内の青年部員は依頼を受けた圃場を訪れ、1坪分の稲を刈り取って計測し、今年の予想収量や刈り取りの適期などを調査しました。全7カ所の坪刈りを行った結果、10a当たりの最高収量は660.5kgで、平均収量は562.1kgとなりました。9月15日時点での平成28年産米の作柄は、生育期間を通じて天候にも恵まれ、全もみ数は「平年並み」ないし「多い」となり、登熟もおおむね順調に推移しているため「やや良」となっています。



▲稲穂を刈取る青年部員



▲粒の大きさや水分量などを検査する担当者

新米の品質検査がスタート

J Aあきた白神

28年産米の初検査が9月21日からJ Aの各倉庫にて行われ、品位鑑定資格を持ったJ A職員らが、玄米の形や色、水分量などを念入りに確認しました。

今年は天候不順による生育の影響も少なく、育苗から出穂まで順調に推移し、7月からの日較差も平年より大きかったため茎数も増加、それによる穂数も多くなりました。9月末時点での一等米比率は95.9%、集荷数量68,766俵となりました。担当者は「高温障害も少なく整粒歩合も高いので品質は良いが、カメムシ被害などが出ている。今後は刈り遅れによる胴割れや過乾燥に注意して作業をしてもらいたい」と話していました。

